

済生会小樽病院看護部キャリア開発ラダー評価表兼認定証 (レベルⅣ)

承認者	課長	認定者	部長

A できている
B 時々できている
C ほとんどできていない

所属 () 氏名 ()

レベル毎に求められる役割	所属部署でリーダーシップを発揮しスタッフを支援する		評価者	
レベル毎の定義	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する			
カテゴリ	評価内容		自己評価	課長評価
レベル毎の目標	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる			
ニーズをとらえる力	1	患者の疾患の予後や退院後の生活等の予測的な状況判断のもと、必要な情報を収集することができる	A B C	A B C
	2	患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者の家庭での役割、仕事の内容、疾患に対する思い等を意図的に焦点化して確認したうえで、収集した情報を統合してニーズをとらえることができる	A B C	A B C
	3	正確なフィジカルアセスメントだけでなく、患者の状況の原因までを予測しとらえることができる	A B C	A B C
	4	患者から症状の訴えがあった場合、原因としてあらゆることを想定して患者の体内で起こっている現象を考えながら、意図的に観察し、アセスメントできる	A B C	A B C
レベル毎の目標	様々な技術を選択・応用し看護を実践する			
ケアする力	1	患者に対し、疾患の予後と治療による影響と患者の生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案・実践することができる	A B C	A B C
	2	患者に対して指導をする場合、予測的な視野を持ちながら、患者の反応に応じて段階的に説明することができる	A B C	A B C
	3	患者の生活の中で起こりうる課題や症状について予測した上で、患者の思いや理解度を確認しながら、対処方法や予防方法を説明することができる	A B C	A B C
	4	患者の生活習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案する	A B C	A B C
	5	急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族(または患者を取り巻く人々)への対応と今後への準備ができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	ケアの受け手を取り巻く多職種の間を調整し連携できる			
協働する力	1	診療報酬などの社会制度も理解した上での調整ができる	A B C	A B C
	2	多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との調整ができる	A B C	A B C
	3	多職種間の連携においては、各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化し、患者に関わることでできるような連携を促進することができる	A B C	A B C
	4	カンファレンスにおいては、連携が促進されるようファシリテートすることができる	A B C	A B C
	5	患者に対し、起こりうる課題を予測して専門・認定看護師などの専門家の関わりを提案し調整することができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる			
意思決定を支える力	1	患者と家族(または患者を取り巻く人々)の気持ちを引き出したり、意思決定プロセスを促進させることができる	A B C	A B C
	2	患者と家族が自ら決定できたり考えたりすることができるように積極的に関わることができる	A B C	A B C
	3	幅広い知識から、様々な案を提示することで、意思決定プロセスを促進させることができる	A B C	A B C
	4	患者や家族、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整することができる	A B C	A B C
	5	複雑な意思決定場面において、患者と家族を尊重し寄り添い続けることができる	A B C	A B C
	6	患者と家族の意思決定に関わるゆらぎに寄り添い支えることができる	A B C	A B C
	7	倫理的な意思決定の解決に向けて支援できる	A B C	A B C
レベル毎の目標	安全な医療を提供するために改善策を提案できる			
安全管理	1	所属部署内の医療安全及び院内感染対策に関する問題を把握し、改善策を提案できる	A B C	A B C
	2	医療安全及び院内感染対策が実施できるよう、スタッフに指導できる	A B C	A B C
	3	災害発生時には、リーダーとしての役割を果たし、メンバーを支援することができる	A B C	A B C
	4	組織の安全(医療安全・感染)文化の醸成に向けて協力できる	A B C	A B C
レベル毎の目標	効果的・効率的な視点を持ち、部署の業務改善に取り組むことができる			
経営参画 (質の評価と業務改善)	1	日常業務が円滑に進むように物品を管理できる	A B C	A B C
	2	効果的(経営的視点)な看護実践のために必要な方法について提案し、取り組むことができる	A B C	A B C
	3	5S活動についてスタッフに指導できる	A B C	A B C
レベル毎の目標	所属部署全体が安全で効果的に業務を行うための調整・時間管理ができる			
時間管理	1	部署内における業務調整、業務分担に関わることができる	A B C	A B C
	2	予定外の出来事に対応し、ケアやメンバーの活動時間を調整することができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	得られた情報を多職種による医療チーム内で共有し、チーム活動に役立てることができる			
情報管理	1	ケアの受け手に関する情報を多職種間で共有することができる	A B C	A B C
	2	共有した情報をチーム活動に活かすことができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	自己のキャリア開発に向けて主体的に取り組む 所属部署の看護の質を高めるために研究的視点で取り組む			
教育・研究能力	1	自己の知識において不足している領域を知り、学習できる(専門領域の研修会や学会に参加)	A B C	A B C
	2	組織ニーズを意識しながら、専門職業人として自己のキャリアについて考え行動できる	A B C	A B C
	3	所属部署の勉強会の企画や運営に参画できる	A B C	A B C
	4	後輩及び学生の役割モデルとなり看護を実践できる	A B C	A B C
	5	所属部署の課題解決に向けて、研究的に取り組むことができる(研究結果を日常の看護に活用)	A B C	A B C
レベル毎の目標	所属部署の目標達成に向けて役割発揮できる			
組織的役割遂行能力	1	夜勤や休日に、看護単位(課長代行)の責任者としての役割行動をとることができる	A B C	A B C
	2	所属部署の目標達成に向けリーダーシップを発揮し、役割を果たすことができる	A B C	A B C
	3	仕事に誇りをもち、後輩の模範となることができる	A B C	A B C
	4	診療報酬体系に関心をもち自施設に結びつけて考えることができる	A B C	A B C
評価日:	年	月	日	